

平成27年1月15日

報 告 書

那須塩原市議会議長 中村 芳隆 様

議会報告会 第1班 班長 君島 一郎
記録者 星 宏子
佐藤 一則
伊藤 豊美

下記のとおり報告会を開催いたしましたので、報告します。

記

1. 日 時 平成26年11月20日(木) 午後6時30分～8時23分
2. 会 場 塩原公民館
3. 担当議員と役割
 - 【担当議員】9名
 - 君島 一郎 (班長)
 - 金子 哲也 (副班長)
 - 磯飛 清 (司会者)
 - 鈴木 紀 (定例会審議内容・結果報告)
 - 鈴木 伸彦 (議会活性化検討特別委員会報告)
 - 相馬 義一 (放射能対策検討特別委員会報告)
 - 伊藤 豊美 (庁舎建設検討特別委員会報告・記録)
 - 星 宏子 (記録)
 - 佐藤 一則 (記録)
 - 【応援議員】3名
 - 大野 恭男、齋藤 寿一、山本はるひ
4. 参加者 市民34名(男性28名、女性 6名)

5. 主な意見・要望

議会報告

<定例会報告について>

質疑・意見なし

<議会活性化検討特別委員会報告について>

質疑・意見なし

<放射能対策検討特別委員会報告について>

Q：関谷地区の現地調査の結果は、線量等はどうかだったか。

A：ラバーマットの件と校庭以外の線量の高いところを対策していくことになります。除染センターが那須塩原市にあり、センターから数字的には聞いていないが、下がっているとのこと。学校毎に常に放射線量は、測っています。

Q：ADR説明会の、議会としての評価は。

A：ADR説明会は、個々が感じたことはあるが、取りまとめていない。

Q：指定廃棄物処分場について矢板市から塩谷町ということだが、これからどうなるのか。

A：議会としては静観することで進んでいます。

<庁舎建設検討特別委員会報告について>

Q：庁舎の建設場所は、どこになるのか。

A：10年前1市2町の合併時、新市建設計画が作成され、その計画では10年以内に那須塩原駅周辺に建設するとうたわれております。東日本大震災の影響で10年以内には出来ませんでした。具体的な場所は、決定されていません。

意見交換

<ヘルスツーリズムについて>

Q：ヘルスツーリズムの拠点となる場所が視力センター跡地と聞いております。そこは大正天皇の「天皇の間」がもともとあった場所であり、そこに拠点と共に「天皇の間」を移していただきたい。

A：市長から、利用等については、地元と協議し観光の拠点としたい。それに向けて財務省に払い下げを受ける形で進めたい。との答弁を得ている。土地が取得されたら地元への相談があると思うので、そこで意見を出していただきたい。議会としても意見として執行部に伝えたい。

Q: がま石トンネルから夕の原間は塩原温泉にとって一番の景勝地です。国道400号バイパス開通後、旧道の片側を歩道にして散策できるようにしてはどうか。

A: 国道400号の旧道なので栃木県の管理になっています。いずれは重複管理が難しい部分なので、市のほうに移管されてくると思います。議会で協議して執行部に要望していきたい。

Q: 医師会病院との連携をどのように考えているのか。

A: 以前、塩原観光協会が医師会病院と連携した経験をしているかと思いますが。ヘルスツーリズムが医師会と連携という部分だけでなく、いろいろな体系があるので何とも言えない部分ですが、議会としては、観光業の皆様から行政側に何をしてもらいたいのか意見を伺いたい。

Q: 高い技術の医療器具を栃木県で作っており、それをアジアに輸出しています。国際交流もヘルスツーリズムとするならば、アジアから来ていただけるような環境作りとセールス活動をして、塩原だけでなく、西那須野、黒磯と広範囲の考えで連泊して県北を回るという発想を持っていただきたい。

A: 貴重な意見として承っておきます。

Q: 2008年「塩原流ヘルスツーリズム・モニターツアー」が実行されました。内容としては、最初に温泉病院で、身長・体重測定、血液検査、問診等を行い、その後山歩きやスノーシューなど色々なプログラムを体験してもらった。旅館においては、ヘルシーメニューということで、栄養士の指導を受けカロリー制限の食事を提供し、リラックス体操や朝の散歩をするという3日間のツアーでした。医師不足で健康な人に対する医療行為ができない状況にあり、病院の体制も患者優先で、救急搬送があった場合は、その時点で終了しなければならないとか、事前に予定が組みづらい点が問題でした。効果としては、血糖値や血圧が下がったり高血圧症が見つかり予防医療につながり、ヘルスツーリズムの意義の一つと感じています。旅館に関しては、ヘルシーメニューをいつでも提供できるのか。豪華な食事がしたいお客さんとの二元性のメニューを通年的に提供できる状態が、現在の塩原の旅館体制では難しいのではないかと。ただ、完璧なメニューのヘルスツーリズムでなくても、部分的には可能だと思うので、地道に続けていきたいと思っています。

A: 日本観光協会によればヘルスツーリズムは、大きく分けると5段階くらいのやり方があります。健康診断をして予防医療をしていくメニューだと一般の患者がいる中、また医師不足の問題もあり大きな問題になってきているのが十分わかりました。議会でも十分中身を検討させていただきます。

Q: 観光局ができることと新聞報道で知ったが、そのロードマップを解説いただきたい。

A: 観光局は、行政側でなく観光協会で設置されるので、議会では答えられない。

<その他について>

Q：街中の旅館の半分が県・市の所有になっています。法人税でいえば本社が市内にあるか、ないかで納税の方法が違うと思うが、そういう点について、どのように考え指導しているのか。

A：会社の納税については、本社と営業所の従業員の数等により法人税の割合は変わってくると思います。市税の主なものについてホテル・旅館で一番大きいのは、固定資産税かと思います。それにおいては、市内にあれば今まで通りの算出方法で税額が出され、法人税の部分は若干の変動はあるかと思います。個人については、一切公表されていないので、議会では把握していません。

Q：塩原の箒川に関して、ヨシやアシが繁茂していて河原に降りられない状況です。今年、釣具メーカーの鮎釣り大会があり、漁協も関係していたので50万円程かけて、これらを刈り払いしました。地元でも刈り払いをやってはいるのですが、人口減少や高齢化でなかなか追いつかないので、専門家での検討をお願いしたい。

A：箒川全体のヨシを刈り取るというのは、不可能と思いますので、意見として持ち帰り検討したい。

Q：温泉活性化委員会が塩原にあり、春の観光が弱いということなので花の里づくりを試験的に始め、視力センター跡地も利用したいと思っています。

A：視力センターについては、市でも観光の拠点にしたいということなので、議会からも市に再度要望していきたいと思います。

Q：JRは多くの駅が全国的にあり、そこに「びゅうプラザ」という旅行専門のところがああります。そこにポスターを貼れば何千、何万枚になります。電車も持っており、その中に広告吊りを現在やっております。また、11月のJALの機内紙に塩原温泉と板室温泉が載っています。観光局ですが、塩原、黒磯、西那須野の観光協会が集まり協議会というのがあります。その上に観光局を立ち上げて、先行的にやっていきたいというのが我々の考えです。

A：観光広告については、JRから京浜急行まで、いろいろなところで11月上旬から11月いっぱいのもので、12月に少し入るものと現在やっているところであり、議会としても十分理解しています。

Q：この地域の野生鳥獣、有害鳥獣の被害をどの程度理解されているか。

A：鳥類、猿、鹿、熊が主な鳥獣かと思います。出没については、塩原地区は全体的に出ています。熊と猿については、黒磯地区の高林にも出ており、その他の鳥獣もこの辺と同じように出ています。農作物に対する被害金額は、本日資料を持ち合わせていませんが、かなりの被害額と認識しているところではあります。

Q：鳥獣被害には20年程悩んでいます。カブ、大根といった主要な1次産物品目がほとんど食い荒らされています。是非一度足を運んでいただきたい

と思います。写真を撮ったりして支所に届けるんですが、本庁の課長や係長に全然伝わっていません。農家以外にも家庭菜園があります。そういうところにも目を向けていただきたい。

A: 以上の3点につきましては、議会として持ち帰り確認の上、執行部に申し入れたい。

Q: 高原地大根、塩原大根として一時は名を売りましたが、ここにきて高齢化そして鳥獣被害で作付ができない。作付ができないと畑が荒れてそこに鳥獣が住み着く。そんな現状を踏まえて、死活問題なので鳥獣被害対策を重点的にやっていただきたい。それに観光客が獣害に遭う危険も十分あるのでよろしくお願ひしたい。

A: いろいろな対策を執行部に求めているのでご理解をいただきたい。

Q: 空き家について、国の方策で地方行政で空き家対策が条例で決められていると伺っています。塩原はもちろん黒磯、西那須野も駅前付近の空き家が相当あります。それに対して議会からの条例を考えているかお聞きしたい。

A: 空き家に関しては、本市だけでなく全国的な問題だと市も認識しています。ただ、個人的な財産権があるので、どういうふうクリアしていくか今後検討していくとの答弁でした。条例化についても、財産権の問題があるので検討していきたいということでご理解いただきたい。

Q: 東北では、行政代執行という形で空き家を取り壊すという事態も実際に行われているのは事実です。塩原にも倒壊しそうな空き家が沢山あり、そこにお客さんが巻き込まれたりする場合、観光地としてのダメージは計り知れないものがありますので、是非とも進めていただきたい。

A: しっかりと理解していきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

6. 報告会の運営について

- ・パワーポイントでの報告が解りやすかった。
- ・ワークショップ形式は、意見が出やすいのではないか。
- ・日程の設定で参加人数が変わるのではないか。
- ・設定テーマについて、より細かく事前通告してはどうか。
- ・語句について解りやすい説明が必要。
- ・議会としての意見を言っても良いのではないか。